# 調査・研修等計画届出書

令和　元年　１０月　９日

瀬戸市議会議長　様

議員名　西本　潤 ㊞

政務活動　として、下記のとおり調査・研修等を実施いたします。

記

| | | |
|---|---|---|
| 期　日 | 令和　元年１１月~~７~~6日から１１月８日まで（~~１泊２日~~ 2泊3日） | |
| 調査先・研修名 | 第 81 回全国都市問題会議 | |
| 会場名（会場所在地） | 鹿児島県霧島市国分清水 309　霧島市国分体育館 | |
| 調査・研修の目的<br>（今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて） | 今回の会議では、防災に関する行政の施策及び自治会等をはじめとする地域のコミュニティ組織の取り組みについて、霧島市における事例を見るとともに、市長及び学識経験者の皆様の経験や研究成果に基づいた講演と報告、そしてパネルディスカッションを通して、「防災とコミュニティ」について学び、各都市が抱える共通した課題の解決への糸口になるよう学んできたい。 | |
| 議長名の依頼 | 要　・　不要 | 依頼先（名称） |
| 同行者名 | 山田治義・冨田宗一・~~小沢勝~~・長江公夫・三木雪実<br>戸田由久・宮薗伸仁・柴田利勝・高島淳・朝井賢次・<br>水野良一　~~12~~ 11名（本人含む） | |

※行程表を添付してください。

# 調 査 ・ 研 修 等 報 告 書

令和　元 年１２月１３日

瀬戸市議会議長　様

議員名　　西本 潤　㊞

政務活動として、下記のとおり調査・研修等を実施したので報告します。

記

| | |
|---|---|
| 期　日 | 令和 元 年１１月 ６日 から11月 ８日まで（２泊３日） |
| 調査先・研修名 | 第81回全国都市問題会議 |
| 会場名（会場所在地） | 鹿児島県霧島市国分清水309　霧島市国分体育館 |
| 調査・研修の目的<br>（今回の調査･研修に係る瀬戸市･自己の現状と課題を踏まえて） | 今回の会議では、防災に関する行政の施策及び自治会等をはじめとする地域のコミュニティ組織の取り組みについて、霧島市における事例を見るとともに、市長及び学識経験者の皆様の経験や研究成果に基づいた講演と報告、そしてパネルディスカッションを通して、「防災とコミュニティ」について学び、各都市が抱える共通した課題の解決への糸口になるよう学んできたい。 |

調査先の事業の現状・課題　／　研修で学んだこと・キーワード等

基調講演　　鹿児島の歴史から学ぶ防災の知恵

志學館大学人間関係学部教授　　原口　泉 氏

１．南九州のシラス文化と自然災害

南九州の江戸時代の災害を振り返ると、「洪水→台風→旱魃→虫害→疫病」のサイクルを繰り返し、さらに火山爆発、地震、津波が被害を増幅させた。

南九州人はこの厳しい環境下でどのように暮らしてきたのだろうか。シラス台地は２万９千年以上前の姶良火山の大爆発により火砕流が堆積して誕生した。温度の低下と共にガスが抜け空洞や亀裂ができた。これを「ガマ」という。縄文時代はガマが縄文人のすまいとなった。古代は、軍事拠点にして律令政府に対し抵抗した。中世には、天台・真言宗の山岳密教の寺院の役割を果たした。近世になると、食料

の貯蔵庫として使われた。農具や肥料を保管する作小屋としても使われている。

南九州では、一農家の所有農地はあちらこちらに散在している。これは作業効率を犠牲にしても、台風の筋になり一農家の耕地が全滅するのを避けるためであった。この防災農法では、散在する耕地に農具や肥料を持ちまわるためガマが保管庫となった。近現代では、西南戦争の時に政府軍の砲撃から西郷軍が身を隠す場所として使われた。太平洋戦争末期になるとアメリカ軍の上陸に備え、旧日本軍が軍事基地として数多くの地下壕を掘った。シラス台地は数年ごとの集中豪雨によるガマの浸食によって深い堀ができ空堀となる。空堀に孤立した山の周りに土塁を築けば山城が完成する削平された山上の降雨は土塁によって空堀に導かれ、土石流のはけ口となる。このように「ガマ文化」は災害常襲地帯の南九州に生まれた独自のシラス文化といえる。

２.門割制度という防災農法

「門割制度」とは、江戸時代の土地制度のことで門という４～５戸の農家の集まりごとに耕地を割り当て、一定期間ごとに割変えをする制度である。耕地を割変えるという一見面倒な制度だが、防災の観点からみるととても理にかなうものである。災害によって作物の収穫ができなかった場合、その被害が地域社会にとって壊滅的な打撃とならないようにするための知恵が門割制度にはあった。

一つ目は、「被害の均分」である。例えば耕地が壊滅的な被害をうけると、直ちに村の人々全員で災害復旧に取りかかる。復旧後は被害を受けなかった耕地も含めて区割りを決めて新たに配分する。

二つ目は、「危機の分散」である。新しく配分される耕地は、一か所にまとまってはいない。耕地をあちこちに組み合わせたもので、一人の耕地があちこちに散在していることになる。一見無駄の多い配分のように見えるが、危険を分散させることに結び付く。このように南九州では、災害が起きることを前提として社会が築かれていたと考えられる。

主報告　　霧島市の防災の取組

鹿児島県霧島市長　　中重　真一 氏

1.鹿児島県の自然災害

鹿児島県の大部分はシラスや溶結凝灰岩に覆われており水を含むと崩れやすい特性がありがけ崩れ等の土砂災害が多く発生している。また、鹿児島県には 11 の火山があり噴石、火砕流により避難を行う大きな噴火がおきている。平成 23 年には約 300 年ぶりに新燃岳が噴火し大きな被害をもたらした

２．火山防災の取組

（1）住民、登山者への安全対策
住民が迅速かつ安全に避難できるよう「新燃岳安全対策マップ」を作成し、噴火に対する普段からの備えを呼び掛けている。また、「霧島山の噴火活動が活発化した場合の避難計画」を作成して市のホームページで公表している。登山者対策として新燃岳周辺にモーターサイレンを５基整備したほか３か所の登山口に噴石や降灰から身を守るための避難壕を設置した。

（2）農業被害対策
噴火時には多くの農業被害が懸念され、降灰の洗浄には多大な労力と用水の確保及び経費が必要となる今後とも、水利組合等の農業関連団体との連携を深め、情報交換を行いながら農業被害の提言に努めていく必要がある。

（3）観光業界等の被害対策
平成 23 年の噴火では噴火の映像が連日放送され、宿泊のキャンセルが相次ぎ噴火が収まっても回復は鈍かった。市及び観光業界においても噴火に対する防災に加え風評被害に対する危機意識も併せ持った対策を行った。

（4）自治体間、関係機関等との連携協力
5 市 2 町構成する「環霧島会議」では、噴火で起きる現象、噴火時の心得ななどを掲載した「霧島山防災マップ」を作成し地域住民に配布し県境を超えた広域連携による防災対策を推進している。

調査先（主な質疑・応答内容）　／　研修（受講後の感想）

比較的自然災害の少ない本市において「危機の分散」はあまり行われていないが今後予想される大災害に対して「ガマ文化」「門割制度」のような昔ながらの伝統的制度は一見無駄なように思われるが実に理にかなった制度で先人の知恵が生かされた制度であることを感じました。これらの「危機の分散」は農業のみならずあらゆる分野での防災、減災に取り入れていく必要があることを実感しました。

| 調査・研修の成果・考察<br>（瀬戸市への反映・自己の能力開発への寄与等） |
| --- |
| 基調講演、主報告において自然災害の多い九州地方の方々の貴重な体験、活動をお聞きする中で火山の噴火など我々の普段の生活の中では考えられない災害を実際の体験を基に聞く事が出来た。本市において火山噴火は想定されていないが風水害、土砂崩れなど本市においても予想される災害に対して、被害を最小限に止める手法を学ぶことができた。科学技術の発達した現在においても災害に対しては無力であるが先人の知恵を取り入れることにより被害を最小限に抑える術を学んだ・ |